

---

# モンスターハンター 少年の大戦記

ぱんどら

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

モンスターハンター 少年の大戦記

### 【Nコード】

N2943M

### 【作者名】

ぱんどら

### 【あらすじ】

とある雪山で、とある”家族”に事件が起こった

それは風のようにやってきて風のように去っていった・・・

その家族の唯一の生き残りである「ヤマト」は目の前で父、母を殺され”なぜか生き残ってしまった”子供

復讐か、それ

とも別の人生を歩むのか・・・？  
今より、ヤマトの戦記が開かれる

## プロローグ

賑やかな村

笑顔溢れる家族

「よう、坊主！どこ行くんだい？」

「んつとね、父ちゃんと母ちゃんと一緒に  
村に遊びにいくんだ  
！」

「よかったなー！いっぱい楽しんでこいよー！」

「うん！」

父さんと母さんと一緒に暮らす幸せな未来

「いつてきまーす！」

「気をつけるよー！」

だが現実とはこんなもの

「おい！　　！母さん守るんだぞ！？」

「う、うん・・・」

「父ちゃんが護ってやるから心配するな！」

「大丈夫よ。この子はアナタに似て強いから・・・ね？」

「はは、そうだな」

不幸は”今”が幸せなほど残酷にやってくる

「ぐあ・・・！？」

「アナタ！」

「いいから・・・隠れてろ・・・！」

父さんを貫く黒い物体

「この子には手を出さないで！」

「か・・・母ちゃん・・・」

消えていく大切な人

「に・・・逃げて・・・」

「あ・・・あ・・・」

俺は忘れないだろう  
あの光景

そして・・・

黒い剣を背負った憎き剣士を



## プロローグ（後書き）

こんにちわ。ばんどらです（o・o）

んー・・・gdgdになりそうだなあ・・・

文章力が皆無なんですよねー・・・

多分これから絶対に誤字、脱字があるのでGANGAN指摘して下さいね（・・）b



旅、危機、そして・・・

嫌な夢を見た

猛吹雪の中、なにもできずにただその「光景」みているしかできなかった過去のできごと

「はぁ・・・」

少年は深いため息を吐いた

あの夢をみると嫌な気分になる

少年は馬車に取りつけられている座席に横になっていた

いつの間にか寝ちまったのか・・・

「おい、兄ちゃん」

運転手の「おっちゃん」が話しかけてきた

「すまねえが今日中にはつかねえかもしんねえなあ」

おっちゃんは申し訳なさそうな声色で言った

「ああ、気にしないで。別に急いでるわけでもないからさ」

おっちゃんは「申し訳ねえ」と言い会話を打ち切った

俺は今、自分の生活の拠点となる”村”に向かっていた

ガタン、ゴトン・・・

馬車は心地良い揺れをしていた

外を見ると左右は高い草木で覆われていた

まだ公道か・・・

公道とは道路にあたいます

「もう一度寝るか」と考えたがまた”あの夢”を見そうで眠気が失せた

そう考えていた矢先、

「んおっ!?!」

おっちゃんの唸り声が鳴ったとたんに馬車急に止まった

ギキイイイー・・・!!!!

嫌な音が響く

ガタン・・・！バタバタ・・・

前の座席に荷物ごと吹っ飛ばされた

「っ痛・・・おっちゃん大丈夫・・・？」

頭を軽く打ったがほかに外傷はないようだ

「大丈夫大丈夫・・・兄ちゃんは大丈夫かい？」

おっちゃんも俺と同じく軽く頭を打っただけみたいだな

「俺は大丈夫だよ。それよりどうかしたの？」

「いやなあ・・・今、前を小さなモノが急に横切ってきたんで・・・」

「小さなモノ？」

ガサ・・・ガサ・・・

隣の茂みから物音が聞こえた

「んー・・・？」

ガサガサッ！・・・ガシッ！

物陰からでてきた物体が抱きついてきた

「うわっ！？」

危うくバランスを崩して転びそうになる

よくみると猫のような生き物が下腹あたりに抱きついていた

「え．．？猫．．？」

咂然としてると猫がこつちを向いてこう言い放った

「助けて下さいニヤ！」

1  
 2  
 3  
 4  
 5  
 6  
 7  
 8  
 9  
 10  
 11  
 12  
 13  
 14  
 15  
 16  
 17  
 18  
 19  
 20  
 21  
 22  
 23  
 24  
 25  
 26  
 27  
 28  
 29  
 30  
 31  
 32  
 33  
 34  
 35  
 36  
 37  
 38  
 39  
 40  
 41  
 42  
 43  
 44  
 45  
 46  
 47  
 48  
 49  
 50  
 51  
 52  
 53  
 54  
 55  
 56  
 57  
 58  
 59  
 60  
 61  
 62  
 63  
 64  
 65  
 66  
 67  
 68  
 69  
 70  
 71  
 72  
 73  
 74  
 75  
 76  
 77  
 78  
 79  
 80  
 81  
 82  
 83  
 84  
 85  
 86  
 87  
 88  
 89  
 90  
 91  
 92  
 93  
 94  
 95  
 96  
 97  
 98  
 99  
 100  
 101  
 102  
 103  
 104  
 105  
 106  
 107  
 108  
 109  
 110  
 111  
 112  
 113  
 114  
 115  
 116  
 117  
 118  
 119  
 120  
 121  
 122  
 123  
 124  
 125  
 126  
 127  
 128  
 129  
 130  
 131  
 132  
 133  
 134  
 135  
 136  
 137  
 138  
 139  
 140  
 141  
 142  
 143  
 144  
 145  
 146  
 147  
 148  
 149  
 150  
 151  
 152  
 153  
 154  
 155  
 156  
 157  
 158  
 159  
 160  
 161  
 162  
 163  
 164  
 165  
 166  
 167  
 168  
 169  
 170  
 171  
 172  
 173  
 174  
 175  
 176  
 177  
 178  
 179  
 180  
 181  
 182  
 183  
 184  
 185  
 186  
 187  
 188  
 189  
 190  
 191  
 192  
 193  
 194  
 195  
 196  
 197  
 198  
 199  
 200  
 201  
 202  
 203  
 204  
 205  
 206  
 207  
 208  
 209  
 210  
 211  
 212  
 213  
 214  
 215  
 216  
 217  
 218  
 219  
 220  
 221  
 222  
 223  
 224  
 225  
 226  
 227  
 228  
 229  
 230  
 231  
 232  
 233  
 234  
 235  
 236  
 237  
 238  
 239  
 240  
 241  
 242  
 243  
 244  
 245  
 246  
 247  
 248  
 249  
 250  
 251  
 252  
 253  
 254  
 255  
 256  
 257  
 258  
 259  
 260  
 261  
 262  
 263  
 264  
 265  
 266  
 267  
 268  
 269  
 270  
 271  
 272  
 273  
 274  
 275  
 276  
 277  
 278  
 279  
 280  
 281  
 282  
 283  
 284  
 285  
 286  
 287  
 288  
 289  
 290  
 291  
 292  
 293  
 294  
 295  
 296  
 297  
 298  
 299  
 300  
 301  
 302  
 303  
 304  
 305  
 306  
 307  
 308  
 309  
 310  
 311  
 312  
 313  
 314  
 315  
 316  
 317  
 318  
 319  
 320  
 321  
 322  
 323  
 324  
 325  
 326  
 327  
 328  
 329  
 330  
 331  
 332  
 333  
 334  
 335  
 336  
 337  
 338  
 339  
 340  
 341  
 342  
 343  
 344  
 345  
 346  
 347  
 348  
 349  
 350  
 351  
 352  
 353  
 354  
 355  
 356  
 357  
 358  
 359  
 360  
 361  
 362  
 363  
 364  
 365  
 366  
 367  
 368  
 369  
 370  
 371  
 372  
 373  
 374  
 375  
 376  
 377  
 378  
 379  
 380  
 381  
 382  
 383  
 384  
 385  
 386  
 387  
 388  
 389  
 390  
 391  
 392  
 393  
 394  
 395  
 396  
 397  
 398  
 399  
 400  
 401  
 402  
 403  
 404  
 405  
 406  
 407  
 408  
 409  
 410  
 411  
 412  
 413  
 414  
 415  
 416  
 417  
 418  
 419  
 420  
 421  
 422  
 423  
 424  
 425  
 426  
 427  
 428  
 429  
 430  
 431  
 432  
 433  
 434  
 435  
 436  
 437  
 438  
 439  
 440  
 441  
 442  
 443  
 444  
 445  
 446  
 447  
 448  
 449  
 450  
 451  
 452  
 453  
 454  
 455  
 456  
 457  
 458  
 459  
 460  
 461  
 462  
 463  
 464  
 465  
 466  
 467  
 468  
 469  
 470  
 471  
 472  
 473  
 474  
 475  
 476  
 477  
 478  
 479  
 480  
 481  
 482  
 483  
 484  
 485  
 486  
 487  
 488  
 489  
 490  
 491  
 492  
 493  
 494  
 495  
 496  
 497  
 498  
 499  
 500  
 501  
 502  
 503  
 504  
 505  
 506  
 507  
 508  
 509  
 510  
 511  
 512  
 513  
 514  
 515  
 516  
 517  
 518  
 519  
 520  
 521  
 522  
 523  
 524  
 525

え？猫つてしゃべんの？

い  
や  
こ  
れ  
だ  
け  
は  
言  
お  
う

「猫がしゃべった！！？」

## 第2話

「ニヤニヤ!？そんなビックリしニヤいでほしいニヤ!！そんなことより・・・」

「なあおっちゃん、猫ってしゃべるっけ？」

「いやああっしに言われましてもお・・・」

「あー・・・」

「ん・・・」

少年は手を顎に当て考え始めた

「あー・・・ちょっと聞いてますかニヤー？」

「いや聞ってる・・・うわ?!急にしゃべんな!」

「えー・・・(・A・)」

「少しひどくないですかい・・・?」

まあいいや・・・そういえばなんでコイツ急に現れたんだ?

「なあ、なんで急に・・・」

言いかけたその時

「!?!?…う、後ろ!!」

おっちゃんが叫んだ

「え…?」

少年が振り向いた瞬間、

ドゴッ!!

少年は鈍い音と共に転げ飛んだ

「ニヤニヤ!?!も、もう来たのニヤ!!」

「お、おい兄ちゃん!!しっかりしろ!!」

おっちゃんが駆け寄ってきた

「…」

畜生、なんだってんだ・・・？

上半身を起こした瞬間

「ぐああ！？」

「！！！？・・・おっちゃん！！！」

ドサッ・・・

おっちゃんは血を流しながら無造作に倒れた

「！？」

「ギャギャギャー！！！」

おっちゃんの後ろに立っていたのは

鋭い爪、蒼い鱗に覆われた鳥竜種

【ランポス】      だった

### 第3話

「ニヤニヤニヤ・・・」

いつの間にか隣にいた猫がガタガタと震えていた

「・・・おい、お前」

少年は小声で呼んだ

「ニヤ！？は、はいニヤ！」

「シッ！静かにしろ・・・！」

「・・・！！！」

猫は手を口にあて、頭を何度も振って答えた

とにかく現状を回避しなきゃな・・・

「いいか・・・？よく聞け」

「・・・？」

「馬車の中に俺の武器が置いてある。それを取りに行ってきてくれ」

「で、でも・・・」



「幸い向こうは”1匹”しか居ないんだ。俺が囿になるからその隙に頼む・・・!」

「わ、わかったニヤ!」

「んじゃ!頼んだぞ!」

そう言うと、ランポスに突貫した

「気をつけてニヤ!」

「グルル・・・」

ランポスは喉を鳴らしながら少年を威嚇している

「・・・」

少年もランポスから目を離さずにジリジリと近寄った

少年はあることを考えていた

そもそもこいつが1匹で行動するか？

「否」

仲間と逸れた？

「いやその可能性は低いだろうな・・・」

どっかに親玉がいて指示でもだしてんのか？

「多分そうだろうね・・・」

「ギャギャー！！！！」

「！！！！」

ランポスは目測で3〜4 mはある距離を跳躍し、少年めがけて襲ってきた

「ツチ・・・！！」

とっさに横に避けた

「ギャギャー！！！！」

今度は前足の鋭い爪で襲ってきた

「なんども襲われてたまるかよっ！！・・・と、オラァ！！！！」

また横に避け、今度はランポスの横腹めがけて思いっきり殴った

ドゴツ・・・！

「ギャア・・・！」

殴った鈍い音とランポスの悲鳴が鳴る。

だが多少ひるんだ程度で毛ほどもダメージを負ったようには見えない

「ひるみもしないか・・・！」

バックステップして距離を取る

「ほらほら、よそ見すんなよー、こっちだけ意識を集中しとけー・・・」

「

そうだ、こっちだけ見ろ！

「ギャギャー！！」

少年の命を狙ってまたもやランポスは襲う

## 第4話

その頃

「ど、どこあるニヤ!?!」

猫は馬車の中をくまなく探していた

「?」

その時、”長い紫色の布袋”が目に入った

「こ、これかニヤ・・・?」

手にとってみた

「お、重っ・・・!?!」

どうやらこの重さは当たり前らしい

「今行くニヤ!」

馬車から降りようとした、その時

・・・ガサッ!ガサッ!

「ニヤニヤ!?!?!」

すぐ横の茂みからかなり小さいが何モノかの足音が聞こえた

シーン・・・・・・・・

音が聞こえなくなる

「ま、まさか・・・まだほかに・・・」

猫は身の危険を感じすぐさま馬車から降り、少年のところに向かった

「よっ！・・・・はっ！・・・・っと！・・・・ウラァ！！！」

「ギャギャ！！！」

ランポスからくる攻撃は紙一重で避け、隙が大きいところに拳を打つ

「ハア・・・こんなヒットアンドアウェイ戦法じゃ逃げてなんかくれないよな・・・」

ヒットアンドアウェイは数回攻撃してすぐに距離をとるため、大ぶりでは意味がない

しかも相手に与えるダメージはとて少ないので長期戦になりやすいだが長期戦をするならとても有意義な戦法である

テコテコテコ・・・!

馬車から駆け寄ってくる声が聞こえた

「持ってきたニャー!!!」

猫がよろよと走ってきた

「お!それをはやくこっちに・・・」

集中が一瞬散漫した

「ギャギャー!!!」

その”一瞬”をランポスは逃さなかった

ビシッ!!!

鞭のような尻尾が少年を吹き飛ばす

「ぐはっ!!」

吹き飛ばされ地面を転げる

「くそ・・・!」

折れてはいないと思うが、さすがは”モンスター”の攻撃  
人間にとって、たかが”小型種”の攻撃でも死の危険性がある

「あ、危ない・・・!!」

「ギャギャッ!!!!」

猫が叫ぶと同時に、ランポスが追いうちに、鋭い爪を光らせ飛び込んできた

「投げる!!」

少年が倒れながら猫に言った

「えいつ!!」

ブン!!と力のかぎり投げた

「ほっ！」

ザシュ！

転がりながらランポスの攻撃を避ける

「どりゃあああ！！！」

綺麗に横を向きながら飛んでくる自分の”愛刀”めがけて飛びついた

ガシッ！

ギリギリのところであつかんで見せた

うっしや！

「さあて、猛反撃の始まりと行きましようか！」

”長い紫色の布袋”の紐をとり中から武器を取り出した

中から取り出した武器は

細く、そして長い

だが決して太刀のような長く太いわけではない



しかし片手剣のように小さいわけでもない

そう、平たく言えば【鉄刀】を少し細し、短くしたような形状だった

#### 第4話（後書き）

ここにて改めてご挨拶を申し上げます。

こんにちわ、ぱんどらと申します（ ^ ^ ）

補足ですが、猫の聴覚は人間の約4倍と言われてます。  
なのであの時に聞いた物音は相当遠い物音になります。

え？なんで説明してるかって？そりゃあ説明しなきゃいけないところなのですよ（笑）俗にいう伏線ですね、ハイ

ちなみに最後にでた武器はご存知の通り【日本刀】ですね。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2943m/>

---

モンスターハンター 少年の大戦記

2010年10月14日12時10分発行